

外出規制を破って次々に犯罪を犯す米兵

「山崎裁判」の威力が米兵犯罪を根絶する

今年になって四件の米兵犯罪が

一件目の犯罪

一月四日の午後二時二〇分ごろ、横須賀市内の目抜き通りで、原子力空母の一等兵曹が、通りすがりの女性の下半身を触り、その後犬の散歩をさせていた女性に抱きつくという犯罪を犯し逮捕されました。行為は県の迷惑防止条例違反ですが、軍の外出禁止令を破つての犯行です。事件後、二十五日も過ぎて横須賀警察は書類送検しました。

二件目の犯罪

一月十三日午前一時四十分ごろ横須賀市船越町の住宅に侵入し、家族からの通報で現行犯逮捕されました。逮捕された米兵は、米海軍横須賀基地所属の二等兵曹で、酒に酔っていて「友達がいると思った」と言っているが、外出禁止の時間帯での犯行です。

三件目の犯罪

一月二十一日午前二時ごろ、汐入町の住宅街で、原子力空母の乗組員が、次々に住宅の呼び鈴を鳴らし、開いていた住宅に侵入しました。家族の通報で警察官が駆け付け現行犯逮捕されましたが、泥酔状態で、やはり外出禁

止時間での犯行です。

四件目の犯罪

一月二十一日午後二時五十五分ごろ、横浜駅西口近くの雑居ビル一階通路で、原子力空母の乗組員が、通行人の日本人女性にしつこく話しかけているところを、買い物に来ていた警備員の男性が「やめなさいよ」と注意をしたところ、米兵がその男性を殴って傷害事件を起こし逮捕されました。

このように、米兵犯罪を抑えるという名目で米軍は、外出規制、飲酒規制を行っていますが、まったく機能していないことが明らかです。裏面にその要因と、どうすべきかの私たちの考えを示していますのでご覧ください。



「山崎裁判」とは

山崎正則さんの妻好重さんが、二〇〇六年の一月三日の早朝、お金を奪う目的で話しかけてきた米兵に殴り殺され、お金を奪われました。その後も、米兵犯罪が続く中で、米兵犯罪根絶を願って、日本政府と米軍に対して、米兵をしっかりと管理監督することを求めて裁判に立ち上がりました。

横浜地裁は、米軍には米兵を管理監督する義務があることを認めましたが、基地司令官には、山崎事件のことを予測できていなかったため、罪を問えないとの不当判決を出しました。

東京高等裁判所は、米軍の米兵管理監督する義務は、日本人を守ることでないとの不当判決でした。

現在最高裁へ上告しています。

最高裁への「公正な判断を求める要請署名を集めています。」ご協力をお願いします。

山崎裁判を支援する横須賀の会

宣伝ビラ第三号

横須賀市田浦町四・五五 石沢宅

どうなっているの？米軍・米兵は

沖縄で、神奈川で、横須賀で米兵犯罪が連続的に起きています。米軍の深夜外出、深夜飲酒の禁止令が出されている中で、相次いで起きる米兵犯罪。

軍の命令を無視する米兵、米兵の行動を管理できない米軍、ここには規律も、秩序も、組織力もない米軍の姿。司令官の管理能力の欠如の姿があります。

命令を守らない米兵

健全な米兵は悪質犯罪を犯さないとしよう。現状を認識し、深夜の外出も飲酒もコントロールすることができません。しかし、悪質な犯罪を起こす兵は、外出禁止も飲酒規制も平然と破るので、自己コントロールができないのです。軍はそれを把握できず、いや把握していても管理監督しない、できないのです。深夜外出禁止・深夜飲酒禁止の規律違反者に対して処分をしていないと思われま

す。以前から書き続けていますが、軍人としての誇りも、軍人としての忠誠心もなく、不況の中で満足な仕事にも就けない米兵で、生活のために入隊する者も多く、或いは犯罪を犯した者が、刑の執行を猶予してもらうことで入隊することもあるようです。

戦争は侵略、殺人が当然のこととして



訓練を受け、人命を軽視することを教えられた米兵が、日本人を軽視し、日本の国を軽んずるのです。日本政府も米国にへりくだる政策をとり続けていることも米兵犯罪発生の大きな原因でもあるのです。これ等が相俟って米兵犯罪が頻繁に起きるのです。

米兵犯罪を防げない日本政府

米兵が国内で日本人・日本在住者に対する犯罪を起こしたなら、日本の法律で日本の裁判所がしっかりと裁判権を行使

しなければならぬのです。しかし、日本政府の弱腰の政策（日米安保・地位協定・密約など）、それに追従してしまう裁判所の責任は大きなものがあるのです。ここを正さないと米兵犯罪はなくならないのです。

米軍が米兵を管理できないのであれば、基地を提供している日本政府、入管手続きもなく米軍関係者の入国を自由に認めている日本政府が、米軍に代わって米兵犯罪を管理することが必要です。すなわち捜査、逮捕、身柄拘束、裁判を日本国が日本人及び日本在住者の安全を守るために行う事が絶対的に必要なことです。しかし残念ながら、日米地位協定が著しく不平等であり、更に僅かに持つ裁判権すら放棄する「密約」をアメリカと結んでいるのです。

根絶するには山崎裁判の勝利を

この状況を打破し、健全な日米関係を構築するには、市民・国民の大きな力で最高裁が日本の主権と国民の人権を守るための正当な判断と、論理に基づく勇気ある判決を出させるために、最高裁宛の署名は天文学的数字を募り提出することが重要だと考えています。市民・国民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。